

本学医学部生の 喫煙と分煙に対する意識調査

植田裕介 大澤直人 岡部倫子 川本常喬
高谷将悟 田根なつ紀 深澤恭之朗

目的

喫煙はその有害性から、喫煙できない場所が全国的に増加しており、禁煙宣言や専門医受験者の禁煙徹底を打ち出して所属医師や医療機関の禁煙を呼びかけている。現在本学岡豊キャンパスでは、分煙対策として建物内禁煙を実施しているが、現状は十分な分煙効果は発揮されていない。本学学生の喫煙状況を、アンケート調査を実施することで把握し、本学の分煙対策の充実のために何を行うべきかを検討することを目的に実施した。

方法

平成 20 年 12 月に本学医学部生 822 人を対象に自記式質問紙調査（無記名）を実施した。そのうち得られた回答は 662 枚であった。また、解析は統計プログラム Small Stata 8.2 を用いた。解析方法として χ^2 検定を用いた。

結果

本学の喫煙率は 7.3% で、過去と比べると低下しており、また、岡豊キャンパス以外の高知大学生の喫煙率よりも低いことが分かった。喫煙の害の認知率は過去にくらべて上昇していたが、本学の分煙対策は「建物内禁煙」であるが、認知度は 35% と低く、灰皿のある場所では喫煙可能という意見が多かった。今後の分煙対策については、敷地内完全禁煙の意見が 4 割と一番多く、次いで建物内禁煙、建物内完全分煙の意見が多かった。他人の喫煙が「迷惑」だと感じる人は医療従事者の喫煙をあまり良く思っておらず、全体的には敷地内全面禁煙に賛成の意見が 8 割を示したが、喫煙者は反対意見が多かった。

結論

頭では喫煙の害を理解しているようであるが、次の行動へは移せておらず、親しい友人が喫煙している場合が多いので、非喫煙者も思い切った意見を控えていると考えられる。現段階では、現行の分煙対策でさえ認知度が高くなく、建物内禁煙であることが知られていない。まずは現行の対策をアピールするとともに敷地内禁煙を実施したい旨を周知させることが重要であると考えられる。しかし、敷地内全面禁煙は敷地のすぐ外で喫煙する可能性があり、周辺住民から問題視される恐れもあるので、「敷地内完全分煙」とするのが妥当であると考えられる。